

学級居心地尺度の開発と、友達関係とのモデルの検討

石川 美智子

Development of a Classroom Comfort Scale and Examination of a Model of Friendship

ISHIKAWA Michiko

2020年10月30日受理

抄 録

本研究の目的は、研究1小学5・6年生を対象に、学級居心地尺度作成および信頼性と妥当性を検討することである。さらに、研究2学級居心地尺度と友達との関係をどの程度説明できるか、仮説モデルを検討することである。研究1では、A県の2つの小学校の5年生6年生140名に質問紙調査を実施した。探索的因子分析の結果、1因子が示された。「よく、がっかりしている人を自分からなぐさめる」「一人でいる子に声をかけることができる」等6項目が確認された。尺度の信頼性を検討するためにクロンバックの α 係数を算出したところ、.762で、内部一貫性が示された。また、基準関連妥当性が確認され、学級居心地尺度は十分な信頼性と妥当性を有した尺度であることが示された。研究2では、「友達との関係」は「学級居心地」に影響を与えることが示された。児童の居心地には、友達との関係を配慮する必要が明らかになった。

キーワード：小学生・学級経営・居心地・学級集団・仮説モデル

問題と目的

学級経営

学級経営は、学問的および社会的感情的学習の両方をサポートおよび促進する環境を作成するために教師が行うすべてのアクションで構成される (Everstone・Weinste, 2006)。学級経営には非常に多くの定義がある。ただし、通常は、秩序を確立したり、生徒を引き付けたり、協力を引き出したりするために教師が行う行動が含まれる (Emmer・Stough, 2001)。一方、日本の文部科学省 (2017) は、「学級経営とは、一般的に、その担任教師が学校の教育目標や学級の実態を踏まえて作成した学級経営の目標・方針に即して、必要な諸条件の整備を行い運営・展開されるもの」と考

えられる」と述べている。文部科学省は、学級経営について重要性は示している。さらに、学習や生活の基盤として、教師と生徒との信頼関係及び生徒相互のよりよい人間関係を育てるため、日頃から学級経営の充実を図ることとしている（文部科学省、2017）。学級経営にあたっては、児童生徒との関係が重要であると指摘している。したがって、児童がどのように学級生活を送っているか知る必要がある。

児童の学級に関わる尺度

児童の学級への適応を示す尺度として、児童を対象としたものは多くない。「児童版 QOL 評価票」（松田,2000）、「生活の満足度（QOL）質問紙」（中村・兼松・遠藤・佐藤・宮本・野田・大西・今田・佐々木, 2002）、「小学生版 QOL 尺度」（柴田他, 2003）、「学校生活の質チェックリスト（小学生版）」（表・繪内・宮前, 2008）、「小学生用学級適応感尺度」（江村・大久保, 2012）、「小学生版学校適応感尺度」（山口・下村・高橋・奥田・松壽, 2016）、「児童用 Q-UR 質問」（河村, 2020）などが開発されている。しかし、子どもが回答するうえで、記述に時間がかかり回答する子どもへの負担が大きいなどの課題が残されている。

本研究の目的は、研究1小学5・6年生を対象に、学級居心地尺度作成および信頼性と妥当性を検討することである。さらに、研究2学級居心地尺度と友達との関係をどの程度説明できるか、仮説モデルを検討することである。学級における児童の学級への適応は長年の課題である。本研究の結果、学級における児童の理解・支援の一助となる。また、不登校等の問題行動の減少につながる可能性もある。

研究1

目的

本研究の目的は、小学生5・6年生を対象に、学級居心地尺度作成および信頼性と妥当性を検討することである。

方法

研究参加者

A県の2つの小学校の5年生6年生140名に質問紙調査を実施した。質問紙に回答した児童のうち、不備のなかった125名を対象とした（有効回答率89.3%）。

実施方法

各実施期間は、201X年6月～8月である。各校の校長に研究の目的を口頭で説明し、そのうえで、各教室で教師が児童に質問紙調査を実施した。①調査への参加は任意であること、②研究以外の目的で使用しないこと、③プライバシーは守られていることを伝え、質問紙のフェイスシートにも明記した。分析には、SPSS 12.0を用いた。

質問紙の内容

学級居心地尺度

学級担任の個を生かす指導が、児童の生活に与える影響を検討するために、先行研

究等を参考に作成した。筆者・院生・現職院生・大学院教員の計4名が合意の上作成し、項目内容の精査と表現の修正を行った。内容に一般性を欠く項目や他と内容が重複する項目は削除し、実習担当教員に添削を依頼し、一部の項目の表現は修正し、最終的に18項目が残った。基準関連妥当性を検討するために、他の尺度も質問項目にいった。「よくあてはまる」を3、「あまりあてはまらない」を1として3件法で回答を求めた。

学校生活質尺度

基準関連妥当性を検討するために、他の尺度も質問項目にいった。学校生活質尺度(表・繪内・宮前, 2008)の下位因子「友達との関係」3項目を追加した。計21項目について「よくあてはまる」を3、「あまりあてはまらない」を1として3件法で回答を求めた。学級居心地尺度の下位因子と正の関連があると予測した。

結果

学級居心地尺度の探索的因子分析

天井効果を示す項目のものはなかった。因子分析(最小2乗法)を行った。その結果、「よく、がっかりしている人を自分からなぐさめる」「一人にいる子に声をかけることができる」等1因子は6項目が確認された(Table 1)。尺度の信頼性を検討するためにクロンバックの α 係数を算出したところ、.762で、内部一貫性が示された。

Table 1 学級居心地尺度の探索的因子分析結果(最小二乗法)

		(n=125)	
		I	共通性
I	($\alpha = .762$)		
	よく、がっかりしている人を自分からなぐさめる。	.680	.463
	クラスの仕事はきちんとやる。	.606	.367
	グループ活動をやってもいいと思うクラスメイトがたくさんいる。	.576	.332
	一人にいる子に声をかけることができる。	.570	.325
	自分が失敗した時に助けてくれる人がいる。	.560	.314
	クラスの中で自分と違う意見もしっかりと聞くことができる。	.556	.309
因子寄与		2.110	

学級居心地尺度の妥当性の検討

学級居心地尺度の基準関連妥当性を確認するために、学校生活質尺度「友達との関係」との相関係数を確認した(Table 2)。相関係数は.561で、有意に差があった。

Table 2 学級居心地尺度と各変数の相関係数

	<i>M</i>	<i>SD</i>	1
1 学級居心地	2.37	.438	
2 友達との関係	3.00	.402	.561**

(*n*=125)

***p*<.01, **p*<.05,

考察

研究1の目的は、小学校5・6年生を対象に、学級居心地尺度作成および信頼性と妥当性を検討することである。児童が学級でとる行動について示した18項目からなる尺度を作成した。

これらを小学生に実施し、探索的因子分析の結果、1因子が示された。また、基準関連妥当性を確認するために、学校生活質尺度の「友達との関係」との関連を確認したところ、いずれも予測通りの結果が得られ、基準関連妥当性が確認された。以上から、学級居心地尺度は十分な信頼性と妥当性を有した尺度であることが示された。

研究2

目的

本研究の目的は、学級居心地尺度と友達との関係をどの程度説明できるか、共分散構造分析を用い仮説モデルを検討することである。

方法

参加者・実施方法

研究1と同じ

使用尺度

研究1と同じ

因果モデルの検討

仮説1

Erikson (1982) は、学童期にはいと、規則や規律の正しさへの興味を増し、自己規制の能力が増加する時期であると述べている。勤勉に努力して、社会に認められ、自己効力感が高まる時期である。また、家族以外の人間関係が優先される。とくに性別を意識するようになり、同性同輩の友人と影響を与え合う。したがって、「友達との関係」は「居心地」に影響を与えると考える。

相関係数も「友達との関係」と「学級居心地」は、有意な正の相関を ($r=.561$, $p<.001$) 示した。これらの仮説に基づいて Figure 1 に表した。

学級居心地と友達との関係について



Figure 1 本研究における仮説モデル

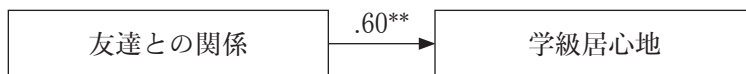
結果

仮説モデルに対するパス解析

学級居心地尺度が、友達との関係をどの程度説明できるかについて、仮説モデルを検討するためのパス解析を行った。Figure 2 にモデルとパスと標準化係数を示す。設定されたモデルに対し共分散構造分析を行い、有意でないパスを削除しながら分析を繰り返していった結果、最終的に適合度が $X^2 = 0, df = 1, p = .000, AGFI = 1.000, RMSEA = .000, CFI = 1.000$ となる良好なモデル適合度が得られた。

「友達との関係、」から「学級居心地」($p < .01$)への有意なパスが見られた。「友達との関係、」が基本となり、「学級居心地」が形成されるという仮説が支持された。

($n = 125$)



$X^2 = 0, df = 1, p = .000$

$AGFI = 1.000, RMSEA = 0.00, CFI = 1.000$

** $p < .01, * p < .05$

Figure 2 学級居心地と友達との関係についてのモデルの検討

総合考察

1. 友達との関係と居心地

井上 (1992) は、友人関係を仲間関係の一部ととらえて、より個人的で限定的な意味を持つ場合について、友人関係を用いており、青年期には、仲間ではなく友人としての結びつきが急増する、としている。難波 (2005) は、仲間は乳児期から児童期に存在する限定的な関係であると述べている。本尺度は、「よく、がっかりしている人を自分からなぐさめる」「一人でいる子声をかけることができる」「自分が失敗した時に助けてくれる人がいる」等、単なる社会的関係でなく支援または配慮の項目があった。このことは、本尺度が、児童期後期の子どもたちが、青年期に向けての個人間の親密な友人関係に配慮して、居心地を想定することに適していると考えられる。

ここで、小学校の高学年の社会的スキルの研究の知見を述べる。尾花・濱口 (2013) は、対人関係の中で、攻撃的な対応をすれば望み通りの結果が得られるという予期が高い場合、望ましいスキルを遂行しにくいことを報告している。さらに、他者から被害を受け、報復しようとする傾向が高いと適切な社会スキルの運用が難しいことも報告している。したがって、「よく、がっかりしている人を自分からなぐさめる」「一人

でいる子に声をかけることができる」「自分が失敗した時に助けてくれる人がいる」等支援または配慮のスキルを実践できるようになるためには、児童が様々な対人関係や関わる出来事を、客観的に理解できるようにしする必要がある。社会的スキルを学ぶだけでなく、社会スキルが行えるような般化の作業が必要であろう。

2. 児童居場所と教師の学級経営

小学生高学年における友人関係の重要性が明らかになった。学級経営では、教師が、個人と学級の子どもたちを結びつけることの調整を行っている。このような、教師による友人関係援助を学校心理学では、すべての児童を対象とする一次援助サービス、一部の生徒を対象とする2次援助サービスととらえている(石隈, 1999)。本研究においても、担任教師による学級経営が、児童の居場所づくりに貢献している可能性が明らかになった。

高田(1999)は、日本人青年は、西欧人青年に比べ相互独立性が低く相互協調性が高く、相互協調性が相互独立性をしのぐ傾向が児童期から青年期を経て、若年成人期まで見られたと述べている。石川・松本(2020)による、インド人教師の調査で、インドの学級経営は教科を教えることに集中していた。一方の日本の教師は学級経営において、個と集団に方向性を持たせることを行っている。具体的には、一人一人を理解し、学級集団で共有しているのである(石川・松本, 2018)。日本の教師の学級経営の営みは、児童にとって、学級での友達との関係や居心地に大きな関係があると考えられる。

3. 学級居心地尺度の活用

学級居心地尺度は、信頼性妥当性が明らかになっている。さらに、複数の学校から抽出したものである。つまり、比較的データに偏りが無い。本尺度の項目を使って各自の平均点を算出して、本尺度の平均点を比較すれば、児童の居心地を比較できる。また、学校単位でも県単位でも可能である。Schalkwyk(2019)は、問題測定は、予防と介入の実践の観点から重要であると述べている。本尺度を学級や学校で活用し、児童の居心地を測定し、予防介入に役立てることができる。活用できるように資料として、アンケート用紙を添付した。本尺度は、比較的簡単な言葉で、項目が少ない。また、学級を想定して作成されているが、学級以外の児童期後半の集団に活用できる可能性がある。

今後の課題

本研究は、学級居心地尺度開発と友達との関係と居心地の影響を明らかにすることを目的に行われた。本研究の結果、友達との関係が居心地に影響を与えていることがわかった。今後の課題として、研究参加者が少なかったことがあげられる。また、本尺度の学年・学級経営による違いを明らかにする必要がある。

引用文献

- 江村早紀・大久保智生(2012) 小学校における児童の学級への適応感と学校生活との関連：小学生用学級適応感尺度の作成と学級別の検討 発達心理学研究 23(3), 241-251
- Erikson, E. H. (1982). *The life cycle completed*. NY: W. W. Norton. (エリクソン, E. H. / 村瀬高雄・近藤邦夫 [訳] (1996). *ライフサイクル, その完結* みすず書房)
- Evertson, Carolyn M. & Weinstein, Carol S. (2006). *Handbook of classroom management: Research, practice, and contemporary*. New Jersey, USA: Lawrence Erlbaum Associates.
- 河村茂雄(2020)Q-U 学級満足度尺度, 学校生活意欲尺度, ソーシャルスキル尺度 図書文化
- 井上健治(1992) 仲間と発達 東洋・繁多進・田島信元(編), 発達心理学ハンドブック pp.1048-1065
- 石隈利紀(1999) 学校心理学～教師・スクールカウンセラー・保護者のチームによる心理教育的援助サービス 誠心書房
- 石川美智子・松本みゆき(2018) 小学校学級経営尺度の信頼性・妥当性の検討－小学校教師と教員養成課程学生の比較－常葉大学教職大学院研究紀要 (4) 111-117
- Ishikawa, M. Matsumoto, M. Odagiri, M., & Nakamujra K. (2020) Indian Classroom Management among Elementary School Teachers india. *International Journal of Asia Pacific School Psychology 1(1) 2020*
- 松田宣子(2000) 児童 QOL 評価の開発に関する研究：WHOQOL (成人版) に基づき作成した児童版評価を用いて 小児保健研究, 59 (2), 350-356.
- 松本みゆき(2020) 集団のなかの自己 石川美智子編 心理学：基礎から・臨床・発達・学習・教育・集団へ 学術研究出版
- 中村伸枝・兼松百合子・遠藤巴子・佐藤浩一・宮本茂樹・野田弘昌・大西尚志・今田進・佐々木望(2002) 小学校高学年から中学生の生活の満足度(QOL) 質問紙の検討 小児保健研究, 61 (6), 806-813.
- 難波久美子(2005) 青年にとって仲間とは何か：対人関係における位置づけと友だち・親友との比較から 発達心理学研究 16(3), 276-285
- 文部科学省(2017) 学習指導要領(平成 29 年告示)
- 表三貴・繪内利啓・宮前義和(2008) 学校生活の質チェックリスト(小学生版)の妥当性と信頼性に関する検討 香川大学教育実践総合研究(16), 123-132
- 尾花真梨子・濱口佳和(2013) 小学生の能動的・反応的攻撃性と社会的スキルとの関連の検討(発達, ポスター発表) 日本教育心理学会総会発表論文集 55(0), 98
- 柴田玲子・松寄くみ子・根元芳子・飯倉洋治(2003) 学校における QOL 調査からみた児童の側面 小児保健研究, 62 (2), 198-203.
- 高田利武(1999) 日本文化における相互独立性・相互協調性の発達過程：比較文化的・横断的資料による実証的検討 教育心理学研究 47(4), 480-489

Van Schalkwyk, G. J. Internationalization of mental health assessments.
International Journal of School & Educational Psychology, 7(3), 147-149.pp.2019
 山口豊一・下村麻衣・高橋美久・奥田奈津子・松嵩くみ子（2016）小学生版学校適応
 感尺度の作成 跡見学園女子大学文学部紀要, 51, 111-118.

資料 アンケート用紙

これはテストではありませんので、質問に対する正し答えや間違った答えというものはありません。授業の成績などに全く影響しません。自分が思ったところに○をつけてください。

学年	組	番号	氏名	す ご く 思 う	そ う 思 う	ま あ そ う 思 う	あ ま り 思 わ な い	ま っ た く 思 わ な い
			しつもん	1	2	3	4	5
			1 よく、がっかりしている人を自分からなぐさめる。					
			2 クラスの仕事はきちんとやる。					
			3 グループ活動をやってもいいと思うクラスメイトがたくさんいる。					
			4 一人でいる子に声をかけることができる。					
			5 自分が失敗した時に助けてくれる人がいる。					
			6 クラスの中で自分と違う意見もしっかりと聞くことができる。					

できる人は合計点と平均点をだしてください。合計点

平均点